

こんねんどひょうご 今年度標語 「ヤコブは次の朝早く起きて、枕 にしていた石を取り、それを記念碑として立て、先端に 油 を注いで、その場所をベテル（神の家）と名付けた。
(創世記28:18.19)

2021年3月21日 (No51)

レント第5主日礼拝

司会：広瀬秀幸 奏楽：松村宣恵
前奏 奏楽者
讃美歌 85 (二回) 一 同
祈り 司会者
聖書 創世記25章29～34節
(旧約聖書39頁)
マタイ福音書20章
20～28節
(新約聖書39頁) 司会者
讃美歌 16 一 同
分かち合い礼拝 聖書の言葉と一週間 みんなで
讃美歌 471 一 同
献金と感謝の祈り 一 同
主の祈り 62
頌栄 キリストの平和が (1・5) 一 同
祝福 一 同
報告

新しく来られた方・久しぶりの方の紹介

【本日の集会】

◇主日礼拝 午後2時 カフェ・ぶらぶら
◇お茶の会 コロナウイルス感染防止のため休会

【今週の集会】

◇第4回臨時役員会 カフェ・ぶらぶら
・3月24日(水) 午後6時30分
議案：
1. 納骨堂と使用規則につて、
2. 会堂建築業者選定と着工祝福式について
3. 仮称「浦河教会65年の記録」出版に経費について

【次週の予定】

◇レント第6主日礼拝(棕櫚の主日)
・3月28日(日) 午後2時 カフェ・ぶらぶら
・聖書 哀歌5章15～22節
(旧約聖書1295頁)
マタイ福音書27章45～54節
(新約聖書58頁)
・説教 「十字架への道」五味 一 牧師
・讃美歌 18、313

【来週の礼拝司会者を決めましょう】

① 和田智子 ② 広瀬秀幸 ③ 秋山里子
④ 佐々木実 ⑤ 吉田公子 ⑥ 伊藤知之 ⑦ 山根耕平 ⑧
岸澤恵美 ⑨ 高崎晋 ⑩ 山本潔 ⑪ 早坂潔

【集会統計】

集会名	参加者	献金
主日礼拝 (3月14日)	24名 (子1名)	7,049円
祈祷会 (3月17日)	6名	

《教会員等の動き》

・八十川真里子 3月17日無事退院されました。

♪ 本日の讃美歌 ♪

♪ 讃美歌16「われらの主こそは」。作詞はロンドンの書店を経営する父の下に生まれたジョサイア・コンダー(1789-1855)。この讃美歌はヨハネの黙示録19章6節「わたしはまた、大群衆の声のようなもの、多くの水のとどろきや、激しい雷のようなものが、こう言うのを聞いた。『ハレルヤ、全能者であり、わたしたちの神である主が王となられた』」にもとづくものです。作曲はイギリス人牧師レーエフ・ハリソン(1748-1810)。三拍子の壮大な讃美歌です。

♪ 讃美歌471「勝利をのぞみ」。作詞はアメリカの黒人奴隷の子、独学で神学を学び黒人教会の牧師となったチャールズ・アルバート・テインドリー(1851-1933)。或いは黒人霊歌とか、いろいろの説があります。曲と合わせると、黒人霊歌の「競りにかけられるのはもうたくさんだ」という歌に似ているとのこと。恐らく、いろいろな歌詞や旋律がまじりあって一つの歌になったのでしょう。

アフリカからヨーロッパをまわって、アメリカに売られてきた黒人奴隷たちが、船上で労働歌のように歌ったものと理解されています。讃美歌としては1960年後半、世界教会協議会で歌われ、そこから各教派の讃美歌集に採集され、広く歌われています。

頌栄 キリストの平和が

1. キリストのへいわが わたしたちのころの
すみずみにまで ゆきわたりますように
5. キリストのゆるしが わたしたちのころの
すみずみにまで ゆきわたりますように

【先週の説教要旨】

「高い山の上で」

出エジプト 24 : 1.9-11
マタイ 17 : 1-13

イエスはペトロ、それにヤコブとその兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られました。この三人、イエスの身に重大なことが起こる際、イエスと行動を共にしました（「ゲッセマネの祈り」マタイ 26 : 37）。証人の務めでしょうか。高い山の上で、三人はイエスの顔が太陽のように、衣は光のように白く、イエスの姿が神々しく変わるのを目のあたりにしました。そこに出エジプトの指導者モーセや王国が分裂したところの預言者エリヤが現れて、イエスと何事かを話していました。彼らは天上の世界に引き上げられたような不思議な体験をしました。

予期しない出来事に気持ちが高ぶったのでしょうか。ペトロは、あらぬことを口走りました。この人たちのためにテントを三つ張りましょうと。そうこうしているうちに彼らは光り輝く雲に包まれ、雲の中から「これは私の愛する子、私の心に適う者。これに聞け」と言う声がしました。この声、イエスが洗礼を受けたとき、天から聞こえた声と同じです。それに『これに聞け』がつけ加えられました。この世のものとは思えない世界の光景でした。

難しい物語です。でも、注意して読むと、言葉の一つひとつにある情景が見えてきます。聖書は、神、信仰、いのちなど、目に見えない信仰の世界を、目に見えるものの言葉で指し示しています。太陽は天上のキリスト（黙示 1 : 16）、光り輝く白い衣（マタイ 28 : 3、ヨハネ 20 : 12）、輝く雲（使徒 1 : 6）や輝く顔（出エジ 34 : 35、コリント II 3 : 7）は、復活や神を見た表現です。これらの言葉は、天上用語とか復活表現といった方がわかりやすいでしょう。高い山の上での出来事は、三人の弟子がそこで復活のイエスの世界を目撃したのでしょうか。

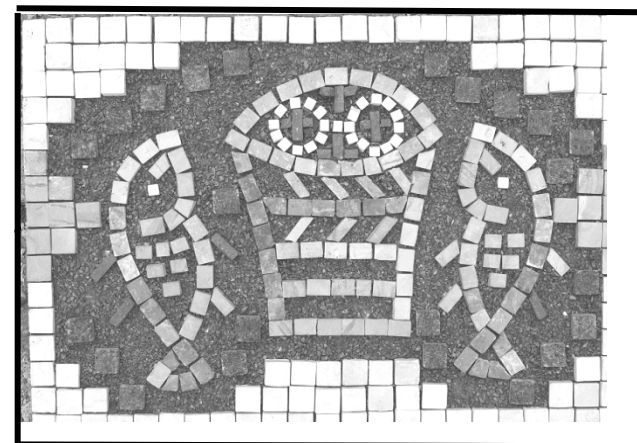
高い山へ行って驚くのは、みなさんの”ご来光”信仰です。拍手や万歳、手を合わせる人、感激に涙する人もいます。エジプトに旅行した時です。モーセの山で日の出を待ちました。岩山の連なる向うに太陽が昇りはじめると、大きな拍手と大歓声が上がりました。ロシアから来た大観光団でした。高い山の上での日の出は、それほど見る者の気持ちを高揚させます。まして、目の前でイエスの姿が変わったのですから衝撃的です。

「あなたがたは私を何者だと言うのか。」イエスが弟子たちに尋ねた時、ペトロは、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えました。山の上の出来事は、そのペトロの答えに対する、神の答え＝お墨付きでしょう。三人の弟子は、その証人です。わたしたちにとって、高い山の上は“礼拝”です。そこに、あなたもわたしもイエスと一緒に集まり、モーセやエリヤ、ペトロやパウロと話して、気持ちが高められます。そこから「イエスが誰であるか」を語る、証人とされて世に送り出されます。

日本キリスト教団浦河教会

週 報

No.51 2021 年 3 月 21 日



教会創立 1956 年

〒057-0022

北海道浦河郡浦河町昌平町東通 32

電話（FAX）0146-22-2904

牧 師 五 味 一

電話（FAX）0146-26-3043